

5. トキは、なぜ 放鳥されるの？



1. 野生絶滅の主要因

- ①明治時代の乱獲(キジの3倍の値で取引)、大正の終わりにはほぼ絶滅。
- ②昭和26年～46年の農薬(DDT散布、S35年から空中散布)、生息環境悪化。
- ③昭和30年代には、カラスとともにトキの天敵であるテンを移入。
(スギの若芽を食べるノウサギの天敵として移入)

2. 野生復帰の背景

- ①平成11年6月13日に真鍋環境庁長官が『佐渡をトキの島にしたい、また環境庁では当面は人工増殖をしながらも近い将来トキを野に放ち、昔のように大空を舞うきれいなトキを皆で見られるようにしたい』と言った。
【トキは、環境省公共事業にふさわしい象徴種】
- ②佐渡トキ保護センターのケージ収容能力は80羽が限界である。(現在のトキの収容数は去年産まれた幼鳥を含めて、ちょうど80羽で限界の数と同じになっている。) 【トキ保護施設容量の限界】【人工飼育の限界】

3. トキと共存するための課題は？

トキは自然界の中で、採餌活動、繁殖活動、飛行・集団活動をおこないます。

そのための課題は、

- ①トキの野生復帰を受け入れるための社会環境づくり
- ②トキの野生生活を支える自然環境づくり

が必要になります。

自然環境づくりの課題には、

- ①営巣環境の創出(トキと林業の共存)
- ②餌場環境の創出(トキと農業の共存)

があります。

トキと農業の共存のための農業農村整備の課題は、

- ①河川→小排水路の水の流れの連続性とネットワーク
- ②小排水路→田んぼの移動経路
- ③田んぼ内の小溝(承水路)の設置(落水時の生き物の避難場所)
- ④用排兼用水路の復活